

平成23年度学校評価結果

重点項目	学年・部・委員会	評価項目・具体的取り組み	評価		取り組みの状況と改善の方策	学校関係者評価
						自己評価の適切さ
学力の向上による進路保障 (①授業力の向上 ②生徒の学力の向上 ③生徒の自己実現に向けた進路支援)	1学年	家庭学習を習慣づける 教科担当者と連携をとり、予復習の徹底を図る。	2.6	B	教師集団の努力と生徒側の成果が乖離した場合、評価基準が難しいので評価基準を再考する必要有り。	学習習慣の定着、個別指導や補習等十分な取り組みがなされたと思われる。教科間の連携に課題ありということであるが、バランスよく実施されたい。また、家庭学習の充実に期待する。 新教育課程に備えて授業力向上の研修を夏期休暇中に実施され、各教科で研究授業を実施される等、生徒の学力向上に向けて取り組んでおられることは評価できる。 進路指導の評価が高いのでかなり充実した取り組みをされたことが伺える。生徒の自己実現に効果的な進路支援を期待します。 生徒の読書意欲を高める広報の充実が評価できる。 科学英語の授業参観をさせていただいたが、教材研究をしっかりとされていることが実感できた。
			2.3	C	小テストの出来を予習の成否と捉えることは困難なので評価基準を再考する必要有り。	
	2学年	進路実現のための的確な情報提供を行うとともに面談の質の向上を図る。	3.2	B	進路情報を全職員に伝達出来るシステムの構築が必要。	
	3学年	自己実現のための進路支援個々の進路実現に相応しい学力把握、実態把握、学習計画の指導	2.9	B	各教科毎に補習実施など十分な取り組みができた。各教科間の連携に課題有り。三者面談、個人面談、面談週間など保護者、生徒の考えがよくわかった。補習も継続的にでき長期休暇では量も十分。	
	教務	研究授業を行い、批評しあうことで、教科指導力の向上を図る。 生徒の学力を向上させるために、常に教材研究や研修に努め、授業改善を試みる。	2.5	B	国語、地歴、数学、理科、英語で研究授業を実施した。	
			2.5	B	「教材研究」及び「教材開発」が一部の教科でしか実施されていない。	
	進路指導	国公立大学入試に対応した進路指導の体制を強化する 1)生徒の学力・進路意識の実態について、職員の共通理解をはかる手立てを実施する。 2)発展的内容の補習の計画的実施を促進する。 3)進路指導委員会(検討会)の充実をはかり、きめ細かな進路指導に役立てる。	3.3	A	年度当初の研修会、部会での議論や報告、職員会議での模試の結果報告により、全職員の共通理解を図ってきた。ただ、部会での議論などが学年に上手く伝達されていないと感じた。学年進路係との連携が必須。	
			2.9	B	一見十分に為されているように思われるが、生徒の要請に十分応えたものになっているか、全学年通して、再検討の余地あり。	
			3.1	B	学校変革の中で、今年度の取り組みは評価したいが、さらなる検討と実行が必要である。	
	図書情報	図書館だよりを毎月1回発行し、生徒の読書に対する意欲を高める。	3.3	A	生徒の興味・関心を広げ、進路にかかわる蔵書をより取りそろえることも必要だと考えられる。	
	SSH推進	学校設定科目「科学・技術・社会」「科学英語」や理数科目の授業内容の充実	3.1	B	教材開発の努力は見られるが、高大連携に向けた教材開発の面では不十分な面が見られる。	
		「自然科学探究」における課題研究の充実と発表会の実施	3.0	B	2月の課題研究発表会・3月の校内発表会の実施により全ての班が発表する。	
		評価アンケート集計による理数科目に対する興味・意欲の分析とアンケート結果のフィードバック	3.1	B	今年度アンケートとその集計・分析をSSH報告書によって報告する。	

平成23年度学校評価結果

重点項目	学年・部・委員会	評価項目・具体的取り組み	評価		取り組みの状況と改善の方策	学校関係者評価
						自己評価の適切さ
豊かな人間性を持った生徒の育成 ① 規律ある態度の育成 ② 地域貢献や就業体験の充実 ③ 人権教育の充実	1学年	公共心の育成 ・言葉遣い ・掃除	2.7	B	教師集団の指導に生徒が良く反応してくれた。来年度は2学年の目標と評価項目として継続したい。	来校すると殆どの生徒から気持ちよく挨拶してくれるので、規律ある態度の育成ができていられると思われる。生徒の自主的な行動を把握するのは困難である。 マナーアップへの指導については、十分指導できていない要因を分析していただきたい。 地域貢献事業で音楽部、ボランティア部、生徒会の活動が浸透し、依頼が増加しているようであるが、さらに地域への貢献度を高めていきたい。 キャンパスカウンセラーの評価項目から生徒が適切なアドバイスを受けていることが伺われる。関係機関との連携を深め人権教育、国際理解教育の充実を望む。
			2.7	B	同上	
	2学年	クラス役員、日番などの役割をしっかりと自覚させ、自主的なクラス運営が出来るようにする。 生徒会執行部を学年の生徒がしっかりと支え、自治意識を高める。 事前指導を徹底し、修学旅行を、修学旅行委員会を中心に運営させて、「教師が指示を出さない修学旅行」として成功させる。	3.0	B	LHRの運営、日番、日々の清掃などの具体的な目標を設定して評価する必要あり。	
			3.1	B	生徒会活動の活性化の評価であれば、学年ではなく生徒指導部の目標かもしれない。	
			3.0	B	毎年、各学年が検討すべき課題である。	
	3学年	社会人になるにあたり人権学習で以下に取り組む 1)就職時における人権意識の育成 2)DVIについての理解と社会性の育成	2.9	B	履歴書について現行のものと過去のものを比較し、人権意識を高めることができた。十分に生徒は理解でき人権意識を向上させた。DVIについて自分の事として考えられる生徒が多かったので続けるべき。	
	総務	「整美」意識の高揚と清掃の徹底	2.9	B	日頃からゴミを見つけたら拾う、ゴミを捨てないと言う意識が必要と思われる。	
	教務	規律のある学校生活に向けて、授業時間を確保できるよう検討する。	2.8	B	授業時間確保については、職員の意識は高いと考える。	
	生徒指導	遅刻指導の徹底	2.9	B	年間通して天候で左右される。遅刻者はほとんど同じ生徒である。	
		地域貢献事業の充実を図る。	3.3	A	音楽部、ボランティア部、生徒会活動で実施。依頼が増加している。	
	図書情報	生徒会(図書委員会)との連携を密にし、生徒が主体となる委員会活動を展開する。活動の重点は文化祭、読書会、朗読会、図書館便り作成、一斉読書などとする。	3.6	A	生徒会・図書委員以外の生徒がより多く参加できるよう、工夫する必要がある。	
	保健	キャンパスカウンセラーとの連携を図り心身共に健康な生徒の育成を図る。	3.6	A	周知徹底を図りより充実させていきたい	
		生徒保健委員会活動を活性化し、保健だより等を通じて生徒の健康に対する意識を高める。	3.5	A	生徒保健委員会活動と保健だよりの充実を図りたい	
	SSH推進	海外研修や国内研修の実施	3.5	A	東日本大震災の影響により東京研修の研修場所変更を余儀なくされたが、海外研修をはじめとして、各種研修が計画通り実施でき、事業評価により高評価が得られている。。	
各種オリンピック・理数甲子園への参加		2.7	B	オリンピック・数学理科甲子園への出場はできたが、数学理科甲子園では上位出場がかなわなかった。		
心の教育委員会	職員研修会と生徒向講演会の精選と充実を図る	3.1	B	職員・生徒の琴線に触れるテーマと講演会をさらに追求する必要がある。		

平成23年度学校評価結果

重点項目	学年・部・委員会	評価項目・具体的取り組み	評価		取り組みの状況と改善の方策	学校関係者評価
						自己評価の適切さ
地域に信頼される学校づくり (①情報発信の手段と内容の充実②教職員の意識の高揚③地域との連携)	1学年	保護者目線で、学年運営を考える。	3.1	B	取り組みとしてはおおむね達成できたように思う。次年度も2学年の目標・評価対象としたい。	ホームページを利用した広報活動は十分できていると思われる。また、ホームページの印刷室から配布物を掌握できるようにされているのは評価できる。部活動の活動状況をもう少し公表されてはいかがでしょうか。ホームページのみならず市の機関誌等も含め広報に努められてはどうか。 体育祭や文化祭を地域に開放されており多数の見学者があることから地域に浸透していることが伺える。特に、文化祭では明石養護や近隣の幼稚園を招待されており、幼児の楽しそうな声から内容も満足できるものと思われる。地域のお年寄りの招待も心がけて頂きたい。 全教職員が緊急時の対応ができるように実技研修を企画されるのであれば、地域も含めた危機管理を考えられたらいかがでしょうか。
	2学年	保護者との懇談会や学年通信、学級通信などを活用し、常に保護者との連携を図りながら、学年運営を行う。	3.1	B	修学旅行のブログの保護者のコメントがよかった。今後、保護者との連携はブログの活用が役立つようだ。	
	3学年	保護者と懇談会や面談を通じて生徒の進路に関して十分な情報交換をして進路実現に反映させる	3.1	B	三者面談を通じ充分時間がとれて互いに考え方、思いを知ることができた。充分情報交換ができた。現状のやり方でよい。	
	総務	家庭・地域との情報共有	3.1	B	プリントやホームページ等をさらに活用し、徹底していく必要がある。	
	教務	教職員、地域の方々へ公開授業を行う。	2.7	B	公開授業に違和感がなくなるように、さらに努力していきたい。	
	生徒指導	通学指導	2.7	B	連絡しても、マンネリ化してしまい具体的に図式化して理解させたい。	
		生徒会活動・部活動等の情報をホームページで発信する。	3.0	B	部活動については依頼できていなかった。	
	進路指導	進路情報の発信 1)進路通信の定期的な発行とその充実をはかる。 2)進路資料室のPC環境の充実により、生徒の自主的な進路情報入手の支援をする。	3.3	A	今年度から全学年の生徒向けの発行に変え、単なる進路情報ではなく、進路意識の啓発を意識した。発行するタイミングなどをさらに検討し、より有効なものにしていきたい。	
			2.8	B	PC環境を整える外部体制の遅れで、必ずしも計画通りには出来なかったのが残念である。来年度にはシステム構築に努力したい。	
	図書情報	近隣の公立図書館との連携を深める	2.6	B	公立図書館を定期的に訪れ、交流をはかる機会を持つ必要がある。	
	保健	校内救急体制を確立し、全職員に周知徹底を図り、緊急時の対応ができる。	3.4	A	全職員が緊急時の対応ができるように実技研修を企画していきたい	
	SSH推進	SSH通信の発行とホームページによる情報発信	2.9	B	毎月1回以上の定期的とはいかなかったが、特に前半は多くの校内向け、中学生向けのSSH通信の発行ができた。	
親子サイエンス教室において、コース生徒と地域の連携を図る。		3.4	A	定員の1.6倍の申込みがあり、抽選で参加者を決定した。参加者アンケートにより高評価が得られた。		
心の教育委員会	高丘地人協、明人教、東人教、東高人教など地域の人権教育協議会との連携を密なものにする。	3.1	B	協議会や人権関係の大会に、より多くの職員が参加できるよう、その体制を整える必要がある。		

<総合的な学校関係者評価>

今年度からチェックリスト型の学校評価から目標管理型の学校評価に取り組み、重点目標に基づいた評価項目が設定され学校が目指すべき方向のベクトルが強化したと思われる。また、評価基準を設けられたことで次のステップが把握しやすくなったのではないだろうか。ただ、重点目標に基づいた評価項目が外部から把握しにくい内容にならないように具体的な根拠や資料を適宜提供していく事を心がけていただきたい。従って、今回の「自己評価の適切さ」の評価において「思われる」という表現にならざるを得ない。日常的に記録を残し、資料を作成していくことを丁寧に進めていく必要がある。SSH研究指定と学校評価を連動して仕事量の軽減も考えらるのではないだろうか。